

神戸大学 ビジョン発信 プロジェクト通信

VOL.2

今回のプロジェクト通信では、作成中の統合報告書の一部を、広報担当の堀内よりご紹介します。

統合報告書では、例年目玉記事として学外者と学長の対談を掲載しているのですが、今年度は兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏（以下、平田学長）に対談をお願いすることになりました。平田学長は学長であるとともに、劇作家・演出家でもあります。私は平田学長が執筆された小説「幕が上がる」を読んだことがあったため、対談の日を楽しみにしていました。

8月25日、学長室に平田学長を迎えて対談が行われ、私も取材のために同席いたしました。お二人の学長が学生に求めることは、社会で活かす力を大学生活で身に付けて欲しいとのことでした。医学においては、藤澤学長が以前「手術も芸術性や想像力が必要」と仰っていたことが話題になりました。患者さんと対話し、退院後について共に考えることは、その後の人生をデザインするということであり、そのためにはどのような手術を施すかということもデザインの一つであるということでした。そういう意味では、医学も芸術もアートであると仰っていることが印象的でした。

また、プロジェクトメンバーから2人の学長に、仕事に行き詰ったときのリフレッシュ方法は？という質問があり、その回答が、最前線を走ってきたお二人ならではの回答で、大変興味深いものでした。藤澤学長の場合、行き詰ったときは敢えて前に出る、走りながら考える、そうすると周りの人を巻き込むことができ、状況もおのずと変わってくる、という

お答えでした。平田学長の場合は、アーティストなので行き詰ってなんぼ、悩みのない作家の作品なんて面白くないでしょ？というお答えでした。一つの仕事で行き詰ると、別の仕事を並行して始めて、気持ちを切り替えているそうです。お二人の「悩んだままで良い」というお答えが力強く感じました。対談の詳しい様子は統合報告書2021を楽しみにお待ちください。
(文：堀内・杉本)

平田オリザ

1962年東京生まれ。劇作家・演出家。劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場芸術総監督、2021年4月より兵庫県立芸術文化観光専門職大学初代学長。戯曲の代表作「東京ノート」で第39回岸田國土戯曲賞受賞。2000年フランスでの「東京ノート」制作、上演をはじめ、ワークショップを含めた海外での活動も盛んにおこなっている。また、日本各地の学校において対話劇を実践するなど、演劇の手法を取り入れた教育プログラムの開発にも力を注ぐ。



平田オリザ学長

行き詰ってなんぼ！
悩みのない作家の作品
なんて面白くないでしょ？

行き詰ったら、敢えて
走りながら考える！すると
周りを巻き込んで状況も
変わってくる！



藤澤正人学長



広報担当・堀内

なるほど、
興味深い...

問い合わせ先：神戸大学財務部財務戦略課
(神戸大学ビジョン発信プロジェクト)

E-mail: fn-ssp@office.kobe-u.ac.jp

TEL: 078-803-5132